

平成21年度 事業報告書

I 一般事業

- ・調査研究事業については、奈良・松戸事業をフィールドとした下記4分野で調査、研究を行いました。
- ・助成事業については、介護福祉士等を目指す専門学校生等へ引き続き奨学金助成を行いました。

1. 調査研究事業

(1) 生きがい増進

- ・生きがい増進の活動拠点である『高齢者総合福祉センター』で、文化教養講座、カルチャー教室、コンサート等を実施しました。

(2) 福祉サービス

- ・奈良、松戸両施設の入居者・利用者のCS向上を図るための接遇向上取組みを、昨年度に引き続き両施設内の接遇委員会と現場職員が主体となって推進しました。
- ・「11/11の介護の日」に奈良施設ではイベントを開催、地域高齢者及びその家族に向けた介護・医療・福祉の知識向上に向けた取組みを実施しました。

(3) 総合生活支援サービス

- ・奈良施設、松戸施設の各職場内で、高齢者への提供サービス等に関する調査研究並びに発表会（園内学会）を開催、その研究成果について関係諸機関へ情報提供する体制を整えました。
(聖隷福祉事業団及び日本老人福祉財団との共同研究)
- ・地域に密着した事業推進を目的として、奈良新聞社の企画した中高齢者対象のイベントに協賛するとともに、健康や財産管理等をテーマにした講演会の開催等、奈良・松戸両施設ともに地域住民、顧客、入居者を対象としたパブリック・リレーション活動を継続しました。

(4) まちづくり

- ・「高齢期の暮らし」をテーマに講演会を開催し、高齢期のすまいの選択肢のひとつとして有料老人ホームを核としたまちづくり(WAC)事業*施設の情報提供に努めました。

*WAC(ウェルエイジングコミュニティ)事業:

平成元年に厚生省(現厚生労働省)が「ふるさと21健康長寿のまちづくり事業」としてスタートさせた施策で、地域で暮らす高齢者が健康で安心し、生きがいを持って暮らせるまちづくりをめざして、地域全体に社会生活サービスを提供するために、健康・福祉施設を総合的に整備する事業

2. 助成事業

- 介護マンパワーの育成を支援する観点から、介護福祉士、理学療法士、作業療法士を目指す専門学校生等への奨学金助成を行いました。
- 1人当たり助成金は年間24万円(月2万円)、年間対象者は50人です。これまでの累計助成者数は473人となりました。

II 特別事業

- ・「サービスの質の向上」「人材の育成」「リスク管理の向上」「経営基盤の安定化」及びWAC事業の基本理念である「地域との連携・交流」を重点目標として、奈良・松戸両施設の運営に取組みました。
- ・また、入居一時金収支・施設会計収支ともに予算を上回る実績で借入金抑制に努めましたが、昨年度に引き続き運転資金が必要な状況にあり8億円(奈良3億円・松戸5億円)の追加借入を行いました。

1. 奈良事業 (厚生労働省WAC認定事業:H2.10.17付)

(1) 疾病予防運動センター (WAC第1号施設)

【ニッセイ・アーク西大和】

- ・近隣地域への訪問ポスティング等入会勧奨を図りましたが、年度会員数としては昨年度並みにとどまりました。
- ・会員の中心は50歳・60歳代であり、中高齢者プログラムの充実と担当制による会員へのきめ細かい指導に努めました。また、地域の高齢者や入居者向けに転倒予防教室を開催しました。

(2) 診療所 (WAC第1号付置施設)

【ニッセイ聖隷クリニック】

- ・医療と介護の機能連携を進め、在宅療養支援診療所の体制整備を着実に推進しました。
- ・入院については、入院患者のQOLを高め終末期看護体制の充実を図る中で、過去最高の入院患者数になりました。

(3) 高齢者総合福祉センター (WAC第2号施設)

【ふれあいプラザ】

- ・文化教養講座は月3回、イベントは月1回を基本に開催、写真講座、裁判員制度講座、試食ができるお菓子講座、落語会等、新しい講座・イベント企画で新規受講者にも多数参加いただきました。
- ・広報活動では情報誌「ふれあい西大和」紙面の刷新と発送先の拡大、ホームページのリニューアル等、地域に向け積極的な広報活動を行いました。

(4) 在宅介護サービスセンター [訪問介護、福祉用具貸与・販売事業、居宅介護支援事業]

(WAC第3号施設) 【ニッセイせいでい在宅介護サービスセンター 西大和店・奈良店】

- ・西大和店は、利用者数は増加しましたが、入院・死亡の発生も増加しました。奈良店は、昨年度同様、近隣の包括支援センターからの紹介で利用者数はさらに増加しました。

(5) 訪問看護ステーション [訪問看護事業] (WAC第3号関連施設) 【訪問看護ステーション西大和・奈良】

- ・西大和店は、年度を通して入院・死亡・施設サービスへの移行も多く利用者数は減少となりました。奈良店は、医療依存度の高い利用者や重症心身障害者の受け入れにより訪問看護の幅を広め利用者数は増加しました。

(6) ケアプランセンター [居宅介護支援事業] (WAC第3号関連施設)

【ニッセイせいでいケアプランセンター西大和、ニッセイせいでい在宅介護サービスセンター 西大和店・奈良店】

- ・ケアプランセンター西大和は、特定事業所(介護重度者対象)として、経営基盤の安定と日々の業務の質を高めた結果、毎月のケアプラン作成人数は増加しました。

- ・また、在宅介護サービスセンターベル西大和店、ベル奈良店内でのケアプラン作成人数についても、対前年増加となりました。

(7) 有料老人ホーム〔特定施設入居者生活介護事業〕(WAC 第4号施設) 【奈良ニッセイエデンの園】

- ・H21/10に入園金価格改定(平均15.6%の引き下げ)を実施し、一般居室の計画15戸に対し、募集実績は20戸となりました。一方、死亡退去戸数や介護居室への住替えも増加し、一般居室の空室は年度末26戸と対前年1戸増加しました。その結果、年度末の介護居室を含めた入居契約数は364戸(入居率91.7%)となりました。

(一般居室336戸/362戸(92.8%)、介護居室28戸/35戸(80.0%))

- ・入居者の平均年齢は80.9歳(男性80.8歳、女性81.0歳)となり前年度比0.4歳上昇しました。
- ・総入居者数454人のうち要介護等認定者数・割合は、年度末103人・23%となりました。
- ・新介護予防活動として「エデンいきいきプログラム」を6月より開始するとともに、11月には「エデン介護の日ふれあいフェスタ」開催し、入居者並びに地域住民の介護の知識を深めていただく場を提供することができました。
- ・例年の防災訓練に加えて、昨年度から地域住民も参加する「防災フェスタ」を開催しました。
- ・また、開設18年目を迎え建物等ハード面の老朽化、利用面の課題点が顕在化し、食堂・玄関等の共用スペースや介護居室等の改修工事を実施し、利用者サービスの向上に努めました。

(8) 老人保健施設〔介護老人保健施設、通所リハビリテーション、短期入所療養介護〕(WAC付帯施設) 【奈良ベテルホーム】

- ・利用者数増加に向けた様々な取り組みをした結果、ここ数年で最高の入所者数を確保することができました。
- ・運営面では1月に2階認知症フロアを中心にノロウイルスによる集団発生(延16名)があり、感染予防対策の見直しを再度行いました。

2. 松戸事業 (厚生労働省WAC認定事業:H6.12.15付)

(1) 疾病予防運動センター (WAC 第1号施設) 【ニッセイセントラルフィットネスクラブ松戸】

- ・地域全体への健康・福祉施設としてイメージアップを図りつつ新規会員の募集に努めた結果、月平均会員数は減少しましたが、昨年度末の会員数はほぼ維持することができました。
- ・隣接する松戸市福祉医療センターと連携し、高齢期における運動機能低下防止(ロコモ)への取り組みを開始しました。

(2) 診療所 (WAC 第1号付置施設) 【松戸ニッセイ聖隷クリニック】

- ・常勤の理学療法士を配置して2年目となり、リハビリ部門の充実を図り継続的に介護予防に関わりを持ちました。また、定期健診受診者のフォローアップにも努めましたが、外来受診促進までには至りませんでした。

(3) 高齢者総合福祉センター (WAC 第2号施設) 【ニッセイ松戸アカデミー】

- ・各種教室については、絵手紙・陶芸の2教室の立ち上げと既存教室の活性化により会員数を増加するこ

とことができました。

- ・イベントもコンサートや講演会に加え、別館ロビーや大ホール等を利用した展示会・フリーマーケット等、多くの地域住民も参加いただく運営を推進しました。

(4) 在宅介護サービスセンター〔訪問介護事業〕(WAC 第3号施設) 【ニッセイエデンヘルプステーション】

- ・一昨年に通所介護事業を隣接の松戸愛光園に移し「松戸共同WAC事業協議会」を立上げ、在宅単独事業2年目となりましたが、比較的介護度の高い新規の契約を確保できたものの、死亡・入院等による契約終了も多く利用者数は昨年度並みとなりました。

(5) 有料老人ホーム〔特定施設入居者生活介護事業〕(WAC 第4号施設) 【松戸ニッセイエデンの園】

- ・年初一般居室の空室4戸でスタートし、募集計画どおり11戸の新規契約を確保できましたが、下期死亡退去増加等により年間退去が16戸発生し、年度末空室は9戸となりました。その結果、年度末の介護居室を含めた入居契約数は336戸(入居率95.5%)となりました。

(一般居室306戸/315戸(97.1%)、介護居室30戸/37戸(81.1%))

- ・入居者の平均年齢は81.1歳(男性81.5歳、女性80.9歳)となり、前年度比0.7歳上昇しました。
- ・総入居者数433人のうち要介護等認定者数・割合は、年度末で93人・21%となりました。
- ・入居者の高齢化が進んでいることから一般居室訪問を継続し、健康・医療介護・体力低下・終末期の意思確認などの相談に応えることができました。介護食のソフト食の提供も7月より一部で実施しました。
- ・園芸や園内の季節飾り付け等のアクティブ企画において、入居者参画型の開催形態を確立することができました。また、食事提供については、6月にアンケート調査を実施し、その調査結果を反映した食事提供が、喫食率や食事サービスの向上に結びつきました。